

早田町、災害に備え

避難所に「白い小箱」備蓄

尾鷲市早田町のビジョ
ン早田実行委員会に27
日、災害用備蓄品「白い
小箱」が届いた。

中身は非常食、飲料水、
ティッシュ、簡易携帯ト
イレなどが入った備蓄セ
ット。四日市市の日本非
常食推進機構から注文を
受けた尾鷲市向井の障害
者多機能型事業所「ゆめ
向井工房（仲廣郎所長）

が梱包作業を請け負い、
同日納品した。

この日、仲所長らと作
業員2人は同町を訪れ、
同委員会の石田元気さん
(27) に、6品が入った小
箱22個(1個1500円)
を手渡した。

震災被災地の宮城県出
身で地域おこし協力隊と
して働いている石田さん
は「テレビで小箱を知り、



工房の作業員から小箱を受け取る石田さん (左)

逃げ道が遮断される地域
住民に声を掛けた。避難
所に逃げてからが大変
で、これで2、3日は生
き延びます」と話してい
た。

同推進機構は、災害用

物資の個人備蓄を推進す
るため、平成23年から「白
い小箱」の普及運動を展
開しており、賞味期限(5
年)内の物品は、開発途
上国の食糧支援に充てて
いる。

防災備蓄品入り

「白い小箱」購入

尾鷲・早田

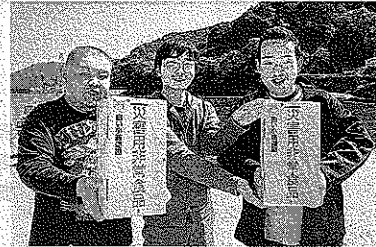
災害時の備えにと、尾鷲市早田町の町おこし団体「ビジョン早田実行委員会」は二十七日、非常食や簡易トイレなどの個人用備蓄セット「白い小箱」二十二箱を購入した。

白い小箱は、四日市市の日本非常食推進機構が防災意識を高めてもらおうと、三年前に販売を始めた。県内の十三高校や自主防災組織が導入している。食

料は賞味期限が五年だが、三、四年を過ぎて使用しなかったものはフィリピンなどの発展途上国に送っている。

尾鷲市内で購入したのは九鬼町内会などに続き四団体目。住民の

石田さん(中)に「白い小箱」を手渡す通所者。尾鷲市早田町で



提案を受けて希望者が購入した。小箱は千五百円(税別)で、アルファ米や氷砂糖、缶詰のパン、ウエットティッシュなど六種類が入っている。

小箱の詰め込み作業をした尾鷲市向井の障害者支援施設「ゆめ向井工房」の通所者二人が、早田町で活動する同実行委の一人で市地域おこし協力隊の石田元気さん(左)に手渡し

た。石田さんは「災害で道路が寸断される可能性もあり、避難してから生き残るための食料が必要。備える意識を大切にしたい」と話した。小箱は海抜二〇センチほどにある旧早田小学校の防災倉庫に保管する。(小坂亮太)